(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-329320
(P2004-329320A)
(43)公開日　平成16年11月25日(2004.11.25)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
A47C 7/42	A47C 7/42		3B084
F16C 11/04	F16C 11/04	F	3J105

審査請求 未請求　請求項の数 6　OL　（全 10 頁）

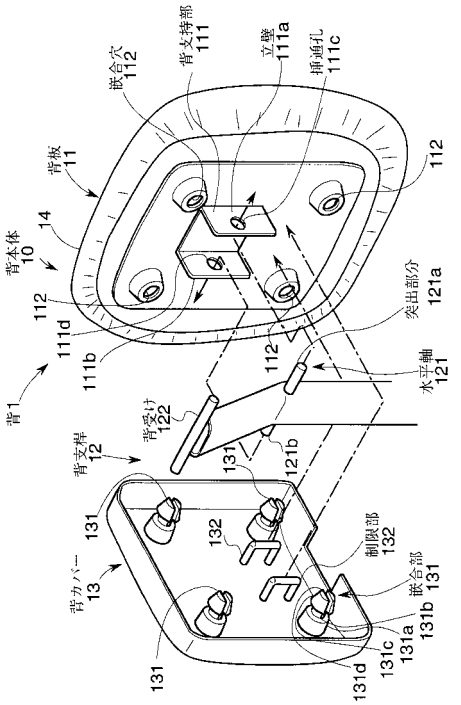
(21)出願番号　特願2003-125894(P2003-125894)
(22)出願日　平成15年4月30日(2003.4.30)

(71)出願人　000001351
コクヨ株式会社
大阪府大阪市東成区大今里南６丁目１番１号
(74)代理人　100085338
弁理士　赤澤　一博
(74)代理人　100118245
弁理士　井上　敬子
(72)発明者　村上　智一
大阪市東成区大今里南６丁目１番１号
コクヨ株式会社内

Fターム(参考)　3B084 FA06
3J105 AA04 AA13 AB48 AC01 BA08 BA47

(54)【発明の名称】椅子

(57)【要約】
【課題】背の組み付け作業に係る労力を削減することを可能にする椅子を提供する
【解決手段】背１と、該背１を支持する背支桿１２とを具備する椅子であって、背支桿１２に設けられ、該背支桿１２の幅方向に突出した水平軸１２１と、前記背１の一部を構成し、前記水平軸１２１をけんどん方式によって挿通可能な挿通孔１１１ｃ、１１１ｄを有する一対の立壁１１１ａ、１１１ｂを具備する背支持部１１１と、同じく前記背１の一部を構成し、前記背支持部１１１と係わり合うことでその挿通孔１１１ｃ、１１１ｄに挿通した水平軸１２１が当該挿通孔１１１ｃ、１１１ｄから抜脱する動作を制限する制限部１３２とを具備し、背支持部１１１と制限部１３２との係わり合いを保った状態で、背１を背支桿１２に支持させてなる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
背と、該背を支持する背支桿とを具備する椅子であって、
背支桿に設けられ、該背支桿の幅方向に突出した水平軸と、
前記背の一部を構成し、前記水平軸をけんどん方式によって挿通可能な挿通孔を有する一対の立壁を具備する背支持部と、
同じく前記背の一部を構成し、前記背支持部若しくは背支桿と係わり合うことでその挿通孔に挿通した水平軸が当該挿通孔から抜脱する動作を制限する制限部とを具備し、
制限部が背支持部若しくは背支桿と係わり合った状態で、背を背支桿に支持させてなることを特徴とする椅子。
【請求項２】
前記背が、前記背支持部を有する背本体と、前記制限部を有する背カバーとを具備し、背本体を背支持部を介して背支桿の水平軸に仮保持し、その状態で背本体に背カバーを取り付けることによって、背カバーの制限部を背本体の背支持部若しくは背支桿に係わり合う位置に配置するようにしている請求項１に記載の椅子。
【請求項３】
前記背が、制限部を有する背本体と、この背本体に取り付け可能な背支持部として機能する背支持部材とを具備し、背支持部材を背支桿の水平軸に仮保持し、その状態で背支持部材に背本体を取り付けることによって、背本体の制限部を背支持部材若しくは背支桿に係わり合う位置に配置するようにしている請求項１に記載の椅子。
【請求項４】
前記背が前記水平軸回りに首振り可能な状態で前記背支桿に支持されるものであって、背支桿が、背支持部と当接することにより背の首振り範囲を両端において制限するものである請求項１～３のいずれかに記載の椅子。
【請求項５】
背支桿が水平軸より上部に当接部を具備し、当接部が背支持部と当接することにより背の上向き方向の首振り範囲を制限するものである請求項４に記載の椅子。
【請求項６】
背支桿が水平軸より下部に当接部を具備し、当接部が背支持部と当接することにより背の下向き方向の首振り範囲を制限するものである請求項４又は５に記載の椅子。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、背を背支桿に簡単に取り付けることができるようにした椅子に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来より、オフィス等で使用される椅子の製造過程において、製造の最終的段階ともいえる組み立て作業は主に手作業によってなされている。この手作業の段階を効率化することはそのまま製造コストの削減につながることから、これら椅子においては、座り心地や機能についての改善のみならず、例えば、部品点数や工数の削減、構造の簡素化等の組み立て作業を効率化するための種々の工夫がなされてきた（例えば特許文献１）。
【０００３】
【特許文献１】
特開２００３－９９７６号公報
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
しかしながら、上記したような組み立て作業の効率化に関する工夫・改良は主に脚や座周りの構造など、改良がなされる部位は限られたものであった。
【０００５】
一方、椅子の組み立て作業において、座の取付作業は座を座受けの上に置いた状態で組み

立て作業を進めるのに比べ、背の取付作業は、背支桿と背支持部とを手で支えた状態で軸を挿通して連結するといった煩雑な作業が不可避なものであり、これが作業の効率化を阻む要因の一つになっている。

【０００６】

そこで本発明は、椅子としての性能を好適に確保しつつ、背の組み付けに係る労力を軽減することを可能にする椅子を提供しようとするものである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するために、本発明に係る椅子は、背と、該背を支持する背支桿とを具備する椅子であって、背支桿に設けられ、該背支桿の幅方向に突出した水平軸と、前記背の一部を構成し、前記水平軸をけんどん方式によって挿通可能な挿通孔を有する一対の立壁を具備する背支持部と、同じく前記背の一部を構成し、前記背支持部と係わり合うことでその挿通孔に挿通した水平軸が当該挿通孔から抜脱する動作を制限する制限部とを具備し、制限部が背支持部若しくは背支桿と係わり合った状態で、背を背支桿に支持させてなることを特徴とする。

【０００８】

ここに言う「けんどん方式」とは、一対の立壁の挿通孔に水平軸の両端部を挿通して架け渡すにあたり、先ず水平軸の一端部を対応する一方の挿通孔に経過的に深く呑み込ませ、しかる後、水平軸の他端部を、先に挿入した一端部を徐々に引き出しながら対応する他方の挿通孔に挿入していく取付方法をいう。そのためには、背支桿からの水平軸の突出量、背支桿の幅寸法、立壁の挿通孔の径と水平軸の径、挿通孔から立壁の前縁までの距離などが、取付状態である程度緩やかに嵌まり合う関係下に設定しておくことが必要である。

【０００９】

しかして、本発明によると、けんどん方式により背支持部を水平軸に仮保持させることができるため、組み立ての際に背支桿と背支持部とを手で支えた状態で軸を挿通して連結するといった煩雑な作業を行なう必要がなく、背の組み付けに係る時間と労力を有効に削減することができる。そして、制限部がけんどん方式によって緩やかに取り付けた水平軸の脱落を防止し、必要であれば当該制限部にガタつきを抑止させる役割を担わせることもできるため、簡単な取付手順であっても背の適正な取付状態を有効に維持することが可能となる。

【００１０】

本発明に係る椅子の具体的な構成としては、前記背が、前記背支持部を有する背本体と、前記制限部を有する背カバーとを具備し、背本体を背支持部を介して背支桿の水平軸に仮保持し、その状態で背本体に背カバーを取り付けることによって、背カバーの制限部を背本体の背支持部若しくは背支桿に係わり合う位置に配置するようにしているものが挙げられる。

【００１１】

このようなものであれば、請求項１の作用効果を得るにあたり、背カバーに制限部としての役割を担わせることで、別途に背の背面処理を行なうことを不要にすることができる。このため、椅子の部品点数の増加を極力抑え、組立て工数の簡素化を図ることが可能となる。

【００１２】

また、本発明に係る椅子の他の具体的な構成としては、前記背が、制限部を有する背本体と、この背本体に取り付け可能な背支持部として機能する背支持部材とを具備し、背支持部材を背支桿の水平軸に仮保持し、その状態で背支持部材に背本体を取り付けることによって、背本体の制限部を背支持部材若しくは背支桿に係わり合う位置に配置するようにしているものが挙げられる。

【００１３】

このようなものであれば、請求項１の作用効果を得るにあたり、背支持部が別体の背支持部材であって簡素な部品により構成することができるため、この背支持部材を背支桿に仮

保持させ、その背支持部材に背本体を取り付ける作業を、背本体の背面側を露出させた状態で確実に行うことができる。このため、組立て作業の便を有効に向上させることが可能となる。

【００１４】

以上において、前記背を前記水平軸回りに首振り可能な状態で前記背支桿に支持するチルト機能を備える場合に、部品点数の一層の削減を図るためには、その背支桿が背支持部と当接することにより背の首振り範囲を両端において制限するような関係としておくことが有効である。

【００１５】

このようなものであれば、背の首振り範囲を規制するために別途にストッパーを設けることが不要になる。よって、背の取り付けに関する部品点数を有効に削減することができる。

【００１６】

具体的には、背支桿が水平軸より上部に当接部を具備し、当接部が背と当接することにより背の上向き方向の首振り範囲を制限するようにしたものであれば、背支桿の首振り範囲を制限する別体の部材が不要になると同時に、水平軸から当接部までの距離をある程度とって背から背支桿に局所的に高荷重が掛かることを回避することができる。

【００１７】

また、背支桿が水平軸より下部に当接部を具備し、当接部が背支持部と当接することにより背の下向き方向の首振り範囲を制限するようにしたものであれば、背支桿の首振り範囲を制限する別体の部材が不要になると同時に、背を適切な待機姿勢に保つことができる。

【００１８】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

＜第１の実施形態＞

本発明の第１の実施形態に係る椅子は、図１の原理図に示すように、背１が、背本体１０と背カバー１３とを有し、この背本体１０及び背カバー１３が前後方向から背支桿１２を挟み込んだ状態で当該背１が背支桿１２に支持されるものである。

【００１９】

背本体１０は背板１１および緩衝部分１４からなる。

【００２０】

背板１１は、図１においては模式的に示しているが実際には前面側を凸とし背面側を凹とするように幅方向に湾曲させた長方形状の板材であり、背面側の中央付近にこの背板１１を背支桿１２に取り付けるための背支持部１１１を取り付け、またその四隅近傍に、この背板１１に背カバー１３を取り付けるための嵌合穴１１２を設けている。この背板１１の素材には一定以上の強度を有する樹脂又は金属が用いられている。

【００２１】

背支持部１１１は、後方及び上方に開口するチャネル状のものであり、背板１１への取付壁から２枚の立壁１１１ａ、１１１ｂを起立させ、これらの立壁１１１ａ、１１１ｂに、背支桿１２の水平軸１２１を挿し通すための挿通孔１１１ｃ、１１１ｄをそれぞれ設けている。

【００２２】

背支桿１２は、少なくとも前方向に平面部分を有する金属製のパイプ材からなるもので、下端部が椅子本体の座受け若しくはその付近に支持され、そこから上方に立ち上がって、上端付近で背面側に向けて曲げ加工が施されている。そして、その屈曲部分に、幅方向に沿って水平軸１２１を背支桿１２から突出させ、また上端に、棒状の背受け１２２をやはり幅方向に沿って背支桿１２から突出させて設けている。水平軸１２１は、具体的には背支桿１２の幅方向に設けた開口に挿し通して溶接等により固定したものであり、背受け１２２は背支桿１２の上端に溶接等により固定したものである。

【００２３】

以上において、背支桿１２の幅はチャネル構造をなす背支持部１１１の溝幅よりも小さく、水平軸１２１は一対の立壁１１１ａ、１１１ｂよりも長寸であるなど、各部は水平軸１２１が背支持部１１１の立壁に設けられた挿通孔１１１ｃ、１１１ｄにけんどん方式によって挿し通すことができる寸法関係にある。背受け１２２は、背支持部１１１が水平軸１２１に取り付けられた状態で当該水平軸１２１回りに回転したとき、背板１１を優先的に当接させる位置に設けられている。

【００２４】

背カバー１３は、樹脂等を素材とした一体成形品であり、背板１１の形状に略一致し、背面を覆う位置に配置される。そして、背板１１の嵌合穴１１２に対応する部位に嵌合部１３１を突出させ、背支持部１１１の下方において背支桿１２の幅方向両縁をその内法間に受け入れることができる位置に一対の制限部１３２を突出させている。嵌合部１３１は、頭部１３１ｃと基部１３１ａの間に括れ部１３１ｂを有した軸状のもので、頭部１３１ｃは嵌合穴１１２の内径よりも径が大きいが縦スリット１３１ｄが入っていて、この縦スリット１３１ｄの部分で縮まることによって嵌合穴１１２に嵌まり合い、背カバー１３を背本体１０に確実に固定することができるように構成されている。また、制限部１３２は背カバー１３の中央付近より立ち上がる一対の側面視コの字型をなす突起状のもので、その一対の制限部１３２、１３２間の距離は、上述した背支持部１１１の立壁１１１ａ、１１１ｂよりも狭く、背支桿１２の側縁を挟み込むことができる関係に設定されている。

【００２５】

次に、図１及び図２を参照して、背板１１に設けられた背支持部１１１を背支桿１２の水平軸１２１にけんどん方式にて取り付ける手法を中心に、背支桿１２に背１を取り付ける手順を説明する。

【００２６】

まず、背支桿１２の水平軸１２１に背支持部１１１を近づけ（図２（ａ））、水平軸１２１の一方の突出部分１２１ａを背支持部の一方の立壁１１１ａに設けられた挿通孔１１１ｃへ斜め方向よりから背支持部１１１が背支桿１２と当接するまで挿通する（図２（ｂ））とともに、背支持部１２の他方の立壁１１１ｂに設けられた挿通孔１１１ｄの箇所を水平軸１２１の他方の突出部分１２１ｂの位置に合致させるまで移動させる（図２（ｃ））。そして背１を他方の挿通孔１１１ｃに向けて移動させ、結果的に水平軸１２１の両方の突出部分１２１ａ、１２１ｂを、背支持部１１１の両方の挿通孔１１１ｃ、１１１ｄに挿入される位置に位置づける（図２（ｄ））。この状態において、背支持部１１１と背支桿１２は着脱可能な状態ではあるが、作業者は背１を支持する手を離しても背支桿１２が背１を保持可能ないわゆる仮保持の状態になり、この状態において背１の組み付けに係る他の作業を別途行うことが可能である。次に仮保持の状態で背カバー１３を背板１１に結合させる。具体的には背板１３に設けられた嵌合部１３１に背カバーに設けられた嵌合穴１１２を嵌合させることにより背板１１と背カバー１３を結合させる。この状態において背カバー１３に設けられた一対の制限部１３２が背支桿１２の両側縁を通過し、背支桿１２の横方向の移動範囲が制限部１３２に制限されることとなり、水平軸１２１の突出部分１２１ａ、１２１ｂが背支持部１１１の挿通孔１１１ｃ、１１１ｄから抜け落ちすることが不可能となる（図２（ｅ））。このようにして背支桿１２に背１を抜脱不能に取り付けることができる。

【００２７】

以上のように、本実施形態に係る椅子は、背１と、該背１を支持する背支桿１２とを具備する椅子を構成するにあたり、背支桿１２に水平軸１２１を突出させて設ける一方、背１の一部に、前記水平軸１２１をけんどん方式によって挿通可能な挿通孔１１１ｃ、１１１ｄを有する一対の立壁１１１ａ、１１１ｂを具備する背支持部１１１と、前記背支持部１１１と係わり合うことでその挿通孔１１１ｃ、１１１ｄに挿通した水平軸１２１が当該挿通孔１１１ｃ、１１１ｄから抜脱する動作を制限する制限部１３２とを設け、背支持部１１１と制限部１３２との係わり合いを保った状態で、背１を背支桿１２に支持させるようにしたものである。

【００２８】
このように構成することにより、けんどん方式で背支持部１１１を水平軸１２１に仮保持させることが可能となるため、組み立て時に背支桿１２と背支持部１１１とを担持した状態で軸を挿通して連結するといった煩雑な作業を行なう必要がなく、背１の組み付けに係る時間と労力を有効に削減して、製造効率を有効に向上させることが可能となる。
【００２９】
具体的には、前記背１が、前記背支持部１１１を有する背本体１０と、前記制限部１３２を有する背カバー１３を具備し、背本体１０を背支持部１１１を介して背支桿１２の水平軸１２１に仮保持し、その状態で背本体１０に背カバー１３を取り付けることによって、背カバー１３の制限部１３２を背本体１０の背支持部１１１に係わり合う位置に配置するようにしている。
【００３０】
このように、背カバー１３に制限部１３２が備わることで、別途に制限部としての部材を導入したり、背１の背面処理を別途行なう作業を不要にすることができる。このため、椅子の部品点数の増加を極力抑えると同時に、組立て工数の簡素化を図ることが可能となる。
【００３１】
なお、本実施形態に係る椅子は、前記背１が前記水平軸１２１回りに首振り可能な状態で前記背支桿１２に支持されるものであって、背支桿１２の上端に設けられた背受け１２２が、背板１１と優先的に当接することにより背１の上向き方向の首振りを制限するものである。このようなものであれば、背２の首振り動作を、水平軸１２１から距離を隔てた位置で受けることができ、このようにトルクアームを小さくできることで背１が受ける荷重を無理なく確実に背支桿１２に支持させることが可能となる。
＜第２の実施形態＞
次に、本発明の第２の実施形態に係る椅子について図３～図５を用いて説明する。
【００３２】
本実施形態において、背支桿２２の基本的構造は上述した第１の実施形態と略同様であるが、背本体２０に設けられた背板２１の構造、背支持部２１１が背板２１とは別体の背支持部材２１１である点、背支桿２１の上部に背受けを設けていない点および制限部ｘ１、ｘ２を背板２１側に設けた点が異なる。そうすることにより、背カバーを取り付ける前段階で、背支桿２２に背２を抜脱不能に取り付けることを可能にしている。
【００３３】
具体的に説明すると、背板２１は、中央部の左右２箇所に、縦方向に延びるリブ２１ｒを有し、そのリブ２１ｒの一部に背支桿２２の水平軸２２１を背面側から収容し得る凹部２１２ａ、２１２ｂを形成した樹脂製のもので、この凹部２１２ａ、２１２ｂに水平軸２２１を収容した状態で、水平軸２２１の端面に凹部２１２ａ、２１２ｂの内壁が当接ないし近接する関係に設定されている。
【００３４】
背支持部材２１１は、背板２１に対しねじ等により結合可能なもので、１枚の板材を折り曲げることによって、前記左右のリブ２１ｒの内法間に嵌め込むことの可能なチャネル部Ｃｈと、このチャネル部Ｃｈの開口側において側壁２１１ｂ、２１１ｃに連続した位置より延びる固定片２１１ｄ，２１１ｅとを備えている。背支持部材２１１の左右の側壁２１１ｂ、２１１ｃには挿通孔２１１ｆ、２１１ｇが設けられており、当該背支持部材２１１のチャネル部Ｃｈを背板２１のリブ２１ｒ、２１ｒ間に嵌め込んだ状態で、この挿通孔２１１ｆ、２１１ｇが前記凹部２１２ａ、２１２ｂに連続する位置に配置されるようにしている。そして、この位置で、背支持部材２１１の四隅に設けたねじ挿通孔ｈを通過させた図示しないねじを背板２１の背面の対応部位にねじ止め可能としている。チャネル部Ｃｈの側壁２１１ｂ、２１１ｃ間の内法寸法は、背支桿２２の幅寸法よりも大きく設定されている。
【００３５】

背支桿２２は、第１の実施形態における背支桿１２と形状及び水平軸２２１の位置は略同様であるが、水平軸２２１の直近上部前面において、背２に荷重がかかった際に背支持部材２１１のチャネル部Ｃｈの底壁２１１ａに接することにより背２に掛かる荷重を受ける第１当接面２２２ａと、水平軸２２１の直近下部前面において、背２に荷重がかからないときにチャネル部Ｃｈの底壁２１１ａに接することにより背２を適切な待機姿勢に保つための第２当接面２２２ｂとが設定されている。

【００３６】

次に、図２並びに図３～図５を用いて、背支桿２２に背２を取り付ける手順を説明する。

【００３７】

背支桿２２の水平軸２２１を背支持部材２１１に設けられた挿通孔２１１ｆ、２１１ｇにけんどん方式により挿通することにより背支桿２２に背支持部材２１１を仮保持させるまでの工程は図２（ａ）～（ｄ）に示す第１の実施形態と略同様である。その後本実施形態においては、背支持部材２１１の固定片２１１ｄ、２１１ｅをねじにより背板２１に固定する。図４は背支持部材２１１を背板２１に固定した状態における断面模式図である。図４に示すように、背板２１に設けられた凹部２１２ａ、２１２ｂが水平軸２２１を受け入れた状態で該水平軸２１１の端面に内壁を当接ないし密接させて横方向の移動を制限しており、この凹部２１２ａ、２１２ｂの内壁が本発明の制限部ｘ１、ｘ２として機能する。そして、第１の実施形態と同様、凹部２１２ａ、２１２ｂの内壁に設定した制限部ｘ１、ｘ２が水平軸２１１を介して背支持部材２１１と一体的に係わり合った状態にある限りにおいて、背２は背支桿２２に抜脱不能に支持された状態を維持する。

【００３８】

また、本実施形態において、背支桿２２の水平軸２２１の近傍では、背支持部材２１１のチャネル部Ｃｈの底壁２１１ａと背支桿２２の当接面２２２ａ、２２２ｂとが当接することにより背支桿２２が背２に係る荷重を受けることができる。図５は背支桿２２が背支持部材２１１を支持する際の側面模式図である。まず、破線で示した背２に荷重がかからないとき、また、着座者が意図して背２に荷重をかけていない姿勢を保っているとき、背２は略直立した待機姿勢となる、このとき、背支持部材２１１の底壁２１１ａ下部が背支桿２２の水平軸２２１よりも下の箇所に位置する当接面２２２ｂと当接することにより背２を適切な待機姿勢に保持することができるとともに（図５（ａ））、着座者が背２に荷重をかけた状態において背支持部材２１１の底壁２１１ａの上部が背支桿２２の水平軸２２１よりも上の箇所である当接面２２２ａに当接することにより背２にかかる荷重を適切に受けることができる（図５（ｂ））。

【００３９】

以上のように、本実施形態に係る椅子は、背２と、該背を支持する背支桿２２とを具備する椅子を構成するにあたり、背支桿２２に幅方向に突出する水平軸２２１を設けるとともに、背２の一部に、前記水平軸２２１をけんどん方式によって挿通可能な挿通孔２１１ｆ、２１１ｇを有する一対の立壁２１１ｂ、２１１ｃを具備する背支持部材２１１と、前記背支持部材２１１と係わり合うことでその挿通孔２１１ｆ、２１１ｇに挿通した水平軸２２１が当該挿通孔２１１ｆ、２１１ｇから抜脱する動作を制限する制限部ｘ１、ｘ２とを設け、背支持部材２１１と制限部との係わり合いを保った状態で、背２を背支桿２２に支持させるようにしたものである。

【００４０】

このため、けんどん方式により背支持部材２１１を水平軸２２１に仮保持させることができ、組み立ての際に背支桿２２と背支持部材２１１とを手で支えた状態で軸を挿通して連結するといった煩雑な作業を行なうことを不要にして、背１の組み付けに係る時間と労力を有効に削減するという前記実施形態と同様の効果を得ることができる。

【００４１】

また、本実施形態の具体的な構成としては、前記背２が、制限部ｘ１、ｘ２を有する背本体２０と、この背本体２０に取り付け可能な背支持部材２１１とを具備し、背支持部材２１１を背支桿２２の水平軸２２１に仮保持し、その状態で背支持部材２１１に背本体２０

を取り付けることによって、背本体２０の制限部ｘ１、ｘ２を背支持部材２１１に係わり合う位置に配置するようにしている。

【００４２】

このようにして、背支持部材２１１が別体の部材であって簡素な部品により構成することができるため、この背支持部材２１１を背支桿２２に仮保持させ、その背支持部材２１１に背本体２０を取り付ける作業を、背本体２０の背面側を露出させた状態において的確に行うことができ、手探りで嵌め合わせるような事態を回避して、組立て作業の便を確実に向上させることが可能となる。

【００４３】

さらに、本実施形態に係る椅子は、前記背２が前記水平軸２２１回りに首振り可能な状態で前記背支桿２２に支持されるものであって、背支桿２２が、背支持部材２１１と当接することにより背２の首振り範囲を両端において制限するものである。

【００４４】

このようなものであれば、背２の首振り範囲は背支持部材２１１および背支桿２２によって制限される構造であるため、背支桿２２の首振り範囲を規制する別異のストッパー等が不要になる。よって椅子を構成する部品点数を有効に削減することができる。

【００４５】

具体的には、背支桿２２が水平軸２２１より上部に当接部たる当接面２２２ａを具備し、当接面２２２ａが背支持部材２１１と当接することにより背２の上向き方向の首振りを制限するものであり、背２に受ける荷重を背支桿２２に無理なく適切に支持させることができる。加えて、背支桿２２が水平軸２２１材より下部に当接部たる当接面２２２ｂを具備し、当接面２２２ｂが背支持部２と当接することにより背２の下向き方向の回動を制限するものであり、背２を適切な待機姿勢に保って、着座動作に支障を来たさないようにしておくことができる。

【００４６】

なお、各部の具体的構成については、上述した実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更が可能である。

【００４７】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、背の組み付けの際に背支桿と背支持部とを手で支えた状態で軸を挿通して連結するといった煩雑な作業を行なうことを不要にして、背の取り付けに係る時間と労力を有効に削減することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の第１の実施形態に係る椅子の原理図。

【図２】同実施形態に係る模式図。

【図３】本発明の第２の実施形態に係る椅子の原理図。

【図４】同実施形態に係る模式図。

【図５】同実施形態に係る模式図。

【符号の説明】

１、２…背

１０、２０…背本体

１１１、２１１…背支持部

１１１ｃ、１１１ｄ、２１１ｆ、２１１ｇ…挿通孔

１１１ａ、１１１ｂ、２１１ｂ、２１１ｃ…立壁

１１２…嵌合穴（開口）

１２、２２…背支桿

１２１、２２１…水平軸

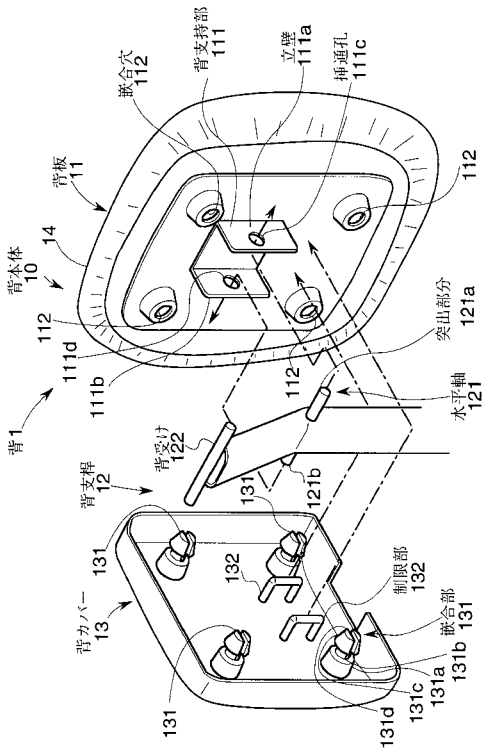
１３…背カバー

１３１…突出部

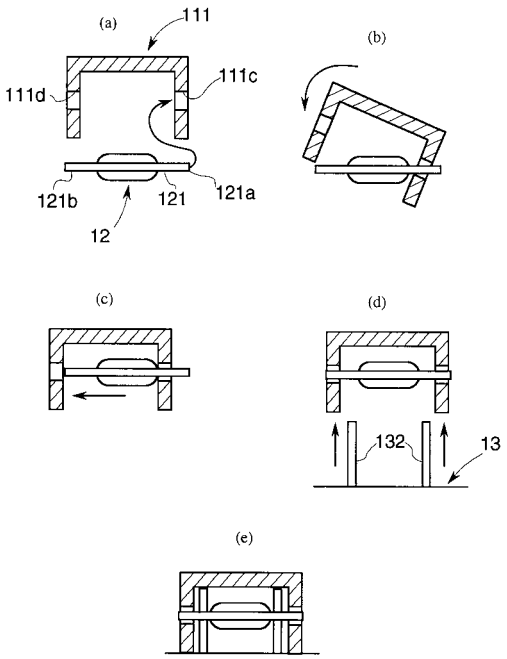
１３２、ｘ１、ｘ２…制限部

２２２ａ、２２２ｂ…当接面（当接部）

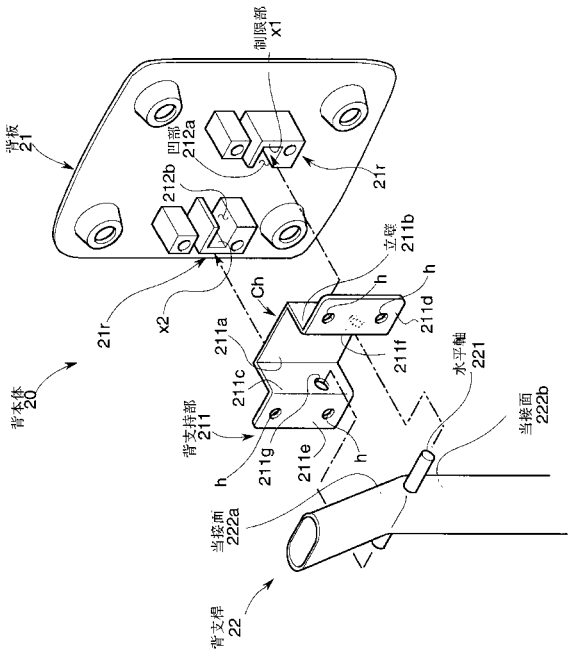
【図１】



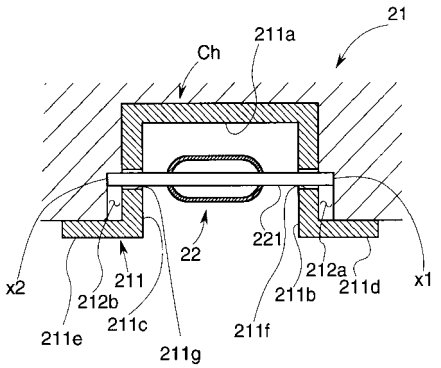
【図２】



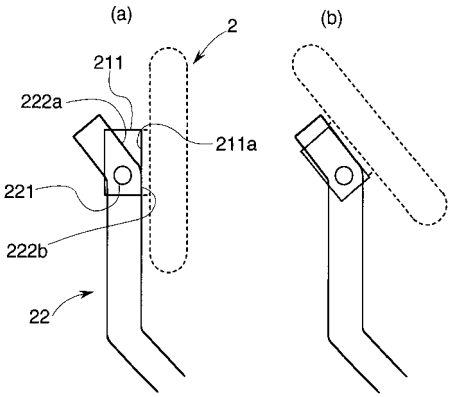
【図３】


制限部
x1
背板
21
凹部
212a
212b
21r
立壁
211b
Ch
h
211d
211f
211a
211c
x2
21r
背本体
20
水平軸
221
背支持部
211
211g
211e
h
当接面
222b
当接面
222a
背支桿
22

【図４】


21
211a
Ch
221
22
x2
211
212b
211c
211e
211g
211f
211b
212a
211d
x1

【図５】


(a)
(b)
2
211
222a
211a
221
222b
22